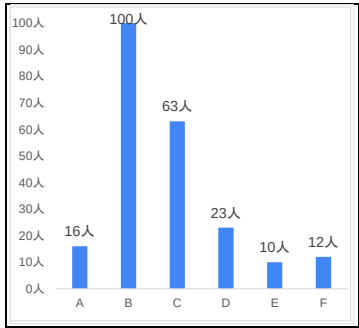
R5 運動部活動の運営と休日の地域移行に関する意識調査結果（島尻地区）
『 教職員・指導者アンケート 』

R5 教職員：n 202　　R5 指導者：n 22　　R4 教職員＋指導者：n 176

【質問1】（教職員と指導者への質問項目）
あなたの役職をお答えください。

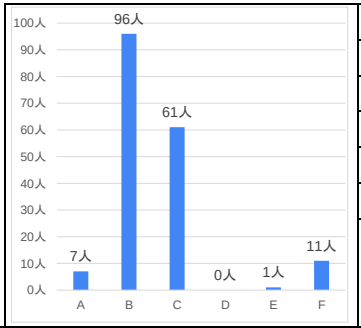
R５　教職員+指導者



回答項目
A 管理職
B 部活動顧問
C 部活動副顧問
D 顧問・副顧問以外の教職員
E 部活動指導員
F 外部指導者

【R4アンケートでの質問】（教職員と指導者への質問項目）
あなたの役職をお答えください。

R４　教職員＋指導者



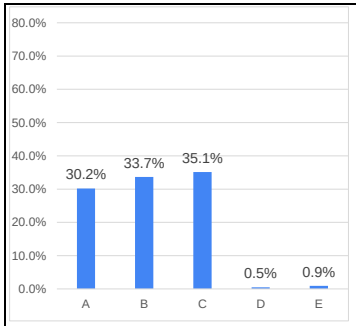
回答項目
A 管理職
B 部活動顧問
C 部活動副顧問
D 顧問・副顧問以外の教職員
E 部活動指導員
F 外部指導者

【結果と考察】
〇今回は、教職員と指導者を合わせた224人の方から回答をいただいた。（昨年度より48人増）
今年度は、昨年度よりも部活動指導員が増加したため、教職員と指導者を分けてアンケート調査を行った。教職員については、部活動に直接関わりの無い方も調査対象とさせていた。部活動指導員については10人、外部指導者についても12人と昨年度を上回る回答数をいただくことができ、貴重なアンケートとなった。
QRコードを使用したアンケート調査を行っており手軽に回答できるため、次年度もアンケートへの協力周知を行っていきたい。

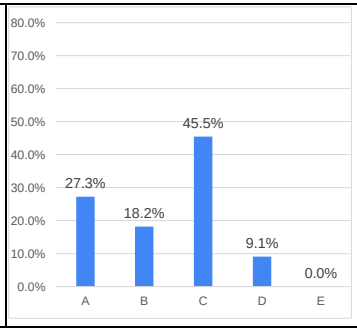
【質問2】（教職員と指導者への質問項目）
各学校において「運動部活動の在り方に関する方針（改定版）」（令和3年12月沖縄県教育委員会）についての周知はありましたか？

【R4アンケートでの質問】（教職員と指導者への質問項目）
各学校において「運動部活動の在り方に関する方針（改定版）」（令和3年12月沖縄県教育委員会）についての周知はありましたか？

R５　教職員



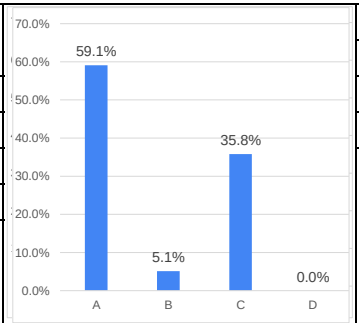
R５　指導者



R５ 回答項目

A 内容の重要部分の確認もあり、しっかり周知があった
B 回覧による周知方法であった
C 周知があったか分からない
D なかった
E 無回答

R４　教職員＋指導者



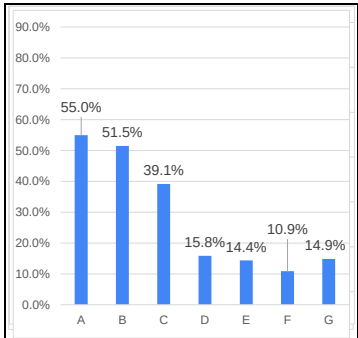
R４ 回答項目

A あった
B なかった
C わからない
D その他

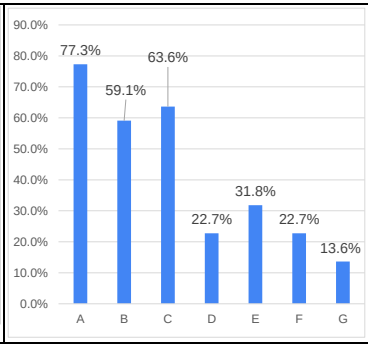
【結果と考察】
〇今年度は、昨年度実施したアンケートの考察を踏まえ、「周知があった」という回答項目を「A 内容の重要部分の確認と周知があった」と「B 回覧による周知方法であった」の2つに分けた。「A･B」の回答率を合計すると、教職員が63．9%、指導者が45．5%であり、昨年度より周知度が高まったと言えるが、令和2年度の81%を下回る結果となった。また、「A 内容の重要部分の確認もあり、しっかり周知があった」という項目は、 30．2%であったため、各学校における周知方法の強化を図る必要がある。
　本県における部活動の適切な運営に関する共通事項であるため、年度初めや年度途中（新チームスタート時）等のタイミングで「運動部活動の在り方に関する方針（改訂版）（令和3年12月沖縄県教育委員会）」の確認を行い、部活動の適切な運営に繋げてほしい。部活動の地域移行への取り組みが進みだし、沖縄県においても部活動改革に関する関心は高くなっている。今後の地域クラブ活動へも周知が必要となる重要な内容であるため、各学校に応じた共通理解･共通実践の依頼を各地区中体連から発信し、部活動に携わる全ての方への周知を目標としていきたい。

【質問3】（教職員と指導者への質問項目）
部活動の指導を通じて目指していることを教えてください。　　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

R５　教職員



R５　指導者



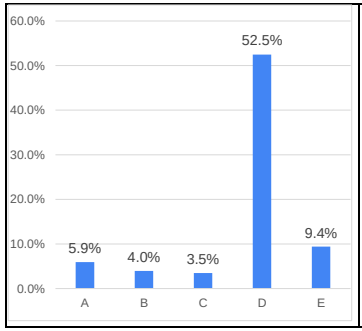
回答項目

A 目標に向かって、やり抜く力が身に付くこと
B 礼儀やマナーが身につくこと
C 技術や体力の向上ができること
D 新しい友達（先輩・後輩など）をつくれること
E 練習を楽しめること
F 放課後を健全に過ごせること
G 仲の良い友達と一緒に活動できること

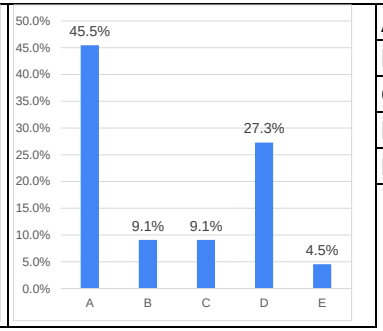
【結果と考察】
〇教職員･指導者ともに、指導を通じて目指しているのは「A目標に向かってやり抜く力が身に付くこと」であった。変化の激しい世の中を生き抜く力を大事にし、「継続力や忍耐力」等を育むことが部活動の指導を行う上で重要視されていることが伺える。
教職員と指導者で、「B礼儀やマナーが身につくこよ」と「C技術や体力の向上ができること」の順は違うが、上位3項目は共通している。

【質問4】（教職員と指導者への質問項目）
部活動を指導している、平日の日数を教えてください。

R５　教職員



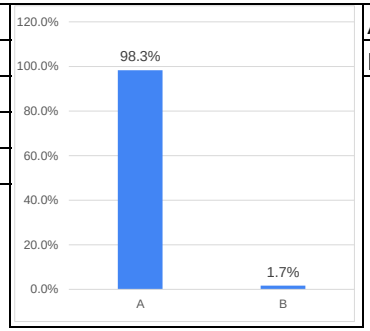
R５　指導者



R５ 回答項目
A １日
B ２日
C ３日
D ４日
E ５日

【R4アンケートでの質問】（教職員と指導者への質問項目）
学期中、平日は少なくとも１日以上の休養日を設けていますか。

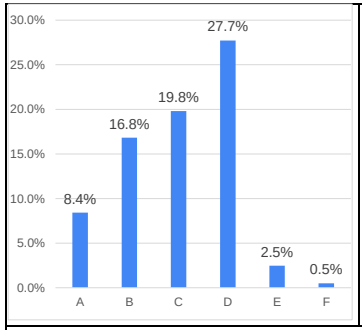
R４　教職員＋指導者



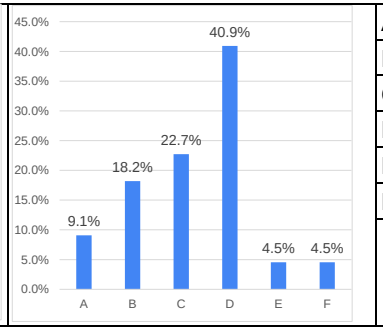
R4 回答項目
A 設けている
B 設けていない

【質問5】（教職員と指導者への質問項目）
平日１日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

R５　教職員



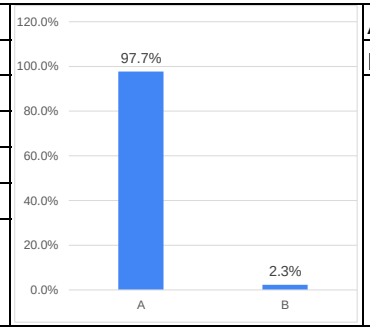
R５　指導者



R５ 回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
E 2時間30分程度
F 3時間以上

【R4 質問】
平日１日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

R４　教職員＋指導者



R4　回答項目
A ２時間程度の活動である
B 超過している

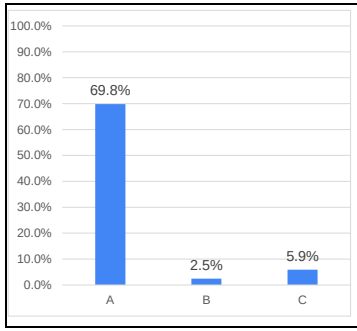
【結果と考察】
〇「平日の１日以上の休養日を設けている」部活動は約90%である事がわかった。昨年度は、98.3%の部活動で「平日の１日以上の休養日を設けている」（令和2年度は、99.4%）であった。昨年度と同様に多くの学校においては、平日の１日以上の休養日を設けて活動していることが伺える。

〇平日１日あたりの平均的な指導時間は、97%の部活動で「2時間（以内）程度の活動である」と回答し、昨年度と同様に多くの学校においては、適切な時間で活動していることが伺える。
　コロナ感染症が感染症法の5類に引き下げられ、通常の練習や大会が開催されてきた影響があると考えられる。しかし、スポーツ医・科学に基づく活動時間の基準等を踏まえて沖縄県教育委員会が定めた活動時間（週１１時間程度）についての理解を深め、成長期にある生徒が、バランスの取れた生活を送り、それぞれの目標達成に向けて取り組めるよう更に周知を図ることが大切だと考える。

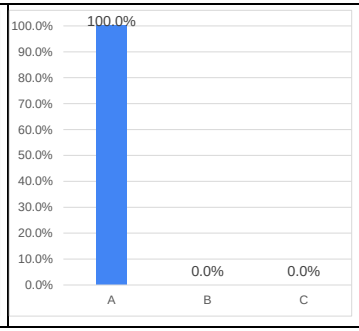
【質問6】（教職員と指導者への質問項目）
部活動を指導している、休日（土日）の活動日数を教えてください。

【R4 質問】
学期中、土曜日及び日曜日は少なくとも１日以上の休養日を設けていますか。

R５　教職員

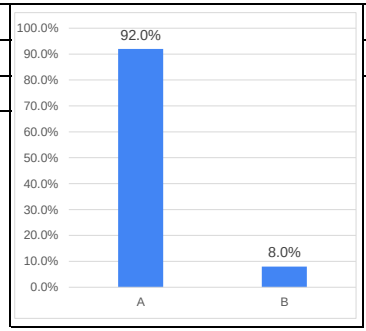


R５　指導者



R５ 回答項目
A １日（土日のどちらか）
B ２日（土日の両方）
C 休日は行わない

R４　教職員＋指導者

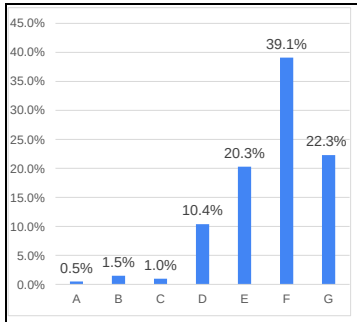


R4 回答項目
A 設けている
B 設けていない

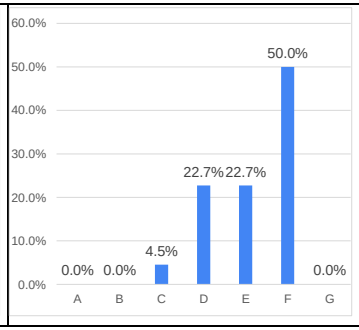
【質問7】（教職員と指導者への質問項目）
休日１日あたりの平均的な指導している時間を教えてください。

【R4 質問】
休業日（学期中の週末含む）の平均活動時間についてお答えください。

R５　教職員

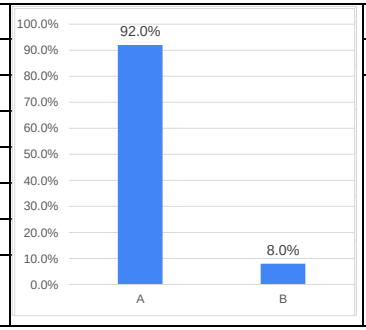


R５　指導者



R５ 回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
E 2時間30分程度
F 3時間以上
G 土日は行わない

R４　教職員＋指導者



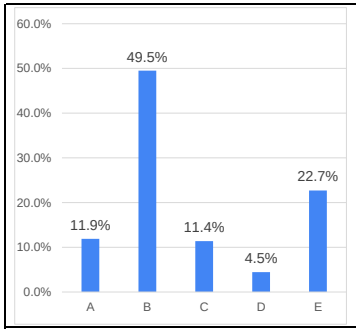
R4 回答項目
A 3時間程度の活動である
B 超過している

【結果と考察】
〇「部活動を指導している、休日（土日）の活動日数」については、回答をいただいたほぼ全ての方が「休日（土日）は少なくとも１日以上の休養日を設けている」と回答した。

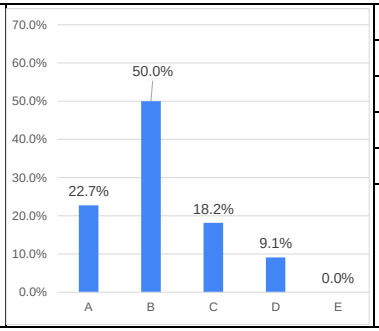
〇休日１日あたりの平均的な指導時間については、「2時間30分程度」以内と回答した部活動が、38.6%であり、39.1%の部活動が「3時間以上」と回答した。
昨年度は、92%の部活動が「3時間程度の活動である」と回答した。
　この質問項目についても先ほどと同様に、スポーツ医・科学に基づく活動時間の基準等を踏まえて沖縄県教育委員会が定めた活動時間（週１１時間程度）についての理解を深め、成長期にある生徒が、バランスの取れた生活を送り、それぞれの目標達成に向けて取り組めるよう更に周知を図ることが大切だと考える。

【質問8】（教職員と指導者への質問項目）
指導をしている部活動の生徒の様子をみて、今の部活動に満足していると思いますか？

R５　教職員



R５　指導者

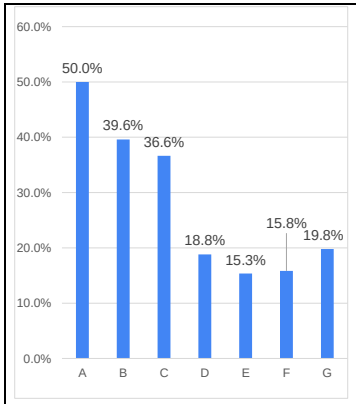


回答項目
A とても満足している
B やや満足している
C 少し不満
D とても不満
E 無回答

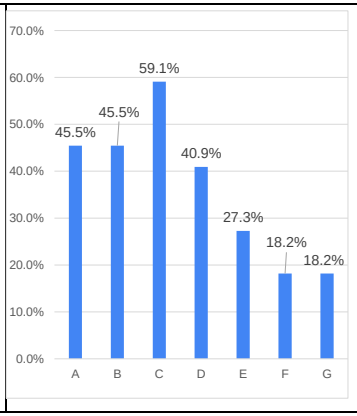
【結果と考察】
〇「A とても満足している」「B やや満足している」と回答した割合が、教職員で61.4%、指導者で72.7%である。反面、教職員の15.6%、指導者の27.3%が生徒の様子をみて、今の部活動に満足していないと感じている事がわかる。 何らかの不満がある生徒にも目を向け、課題を解決していく取り組みも必要であると考える。

【質問9】（教職員と指導者への質問項目）
指導をしている部活動の生徒の様子をみて、生徒が部活動で満足している（良いと思っている）と思われるところを教えてください。
※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

R５　教職員



R５　指導者

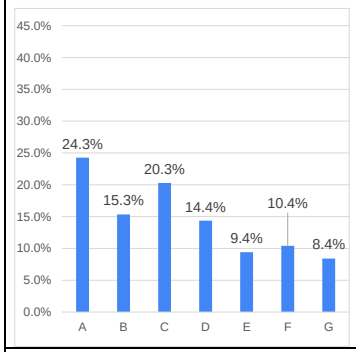


回答項目
A 仲の良い友達と一緒に活動できること
B 技術や体力の向上ができること
C 練習を楽しめること
D 目標に向かって、やり抜く力が身に付くこと
E 新しい友達（先輩・後輩など）をつくれること
F 大会で良い成績を収められること
G いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる

【結果と考察】
〇教職員・指導者共に上位3つは同じ項目になっている。
〇教職員は、「A仲の良い友達と一緒に活動できること」が最も多く、指導者は「C練習を楽しめることが最も多いこと」から、仲の良い友達と、練習を楽しむという共通点がみられる。教職員・指導者が連携を取りながら部活動指導に取り組んでいることが伺える。

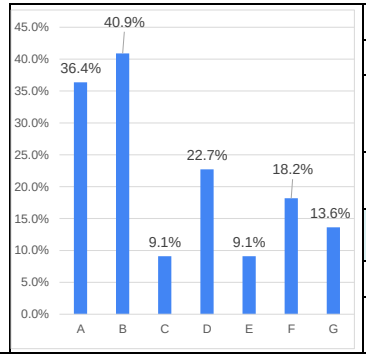
【質問10】（教職員と指導者への質問項目）
顧問をしている部活動の生徒の様子をみて、今の生徒が部活動で課題や不満だと思われるところを教えてください。
※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

R５　教職員



回答項目
A 部員数が少ない
B 勉強との両立が難しい
C 技術や体力の向上が実感できない（専門的な指導をしてほしい）
D 友達や先輩・後輩との関係やチームワークが良くない,
E 自分のしたい活動（趣味等）ができない
F 課題や不満はない
G 試合や発表会などに十分に出場できない、させてくれない

R５　指導者



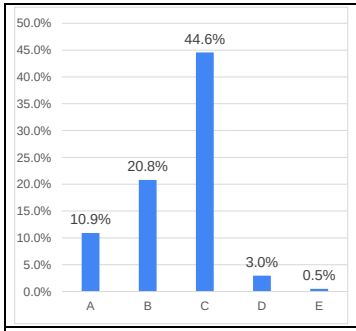
回答項目
A 部員数が少ない
B 勉強との両立が難しい
C 技術や体力の向上が実感できない（専門的な指導をしてほしい）
D 友達や先輩・後輩との関係やチームワークが良くない
E 練習がつまらない
F 課題や不満はない
G 試合や発表会などに十分に出場できない、させてくれない

【結果と考察】
〇教職員・指導者共に「A部員数が少ない」ことが課題や不満だと感じている。「B勉強との両立が難しい」については、教職員は15.3%、指導者は40.9%となっており、認識の違いが伺える。

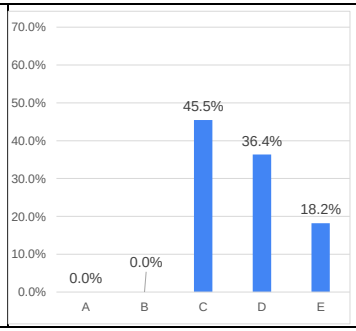
〇指導者は、「D 友達や先輩・後輩との関係やチームワークが良くない」、「E 練習がつまらない」の回答率が高くなっている。改善するポイントとして教職員と共有する必要があると考える。

【質問11】（教職員と指導者への質問項目）
学習や趣味、家族や友人との時間を含めて、心身ともに健康でバランスの取れた生活を送っていくために、現在の活動量（時間や日数）は、生徒にとって適切だと思いますか？

R５　教職員



R５　指導者



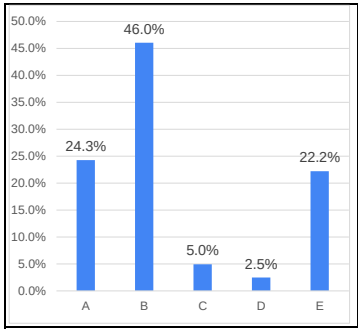
回答項目
A 多すぎる
B やや多すぎる
C 適切
D やや少ない
E 少なすぎる

【結果と考察】
〇教職員・指導者共に「C 適切」が最も多いが、教職員の31.7%が「A多すぎる・Bやや多すぎる」、指導者の54.6%が「Dやや少ない・E少なすぎる」とのことから、教職員・指導者の認識の違いが大きく表れた結果となった。本県や各学校が示す部活動方針の共有や各部活動においての活動方針等の再確認を行い、ベクトルを合わせた活動につながる取り組みが必要であると考える。

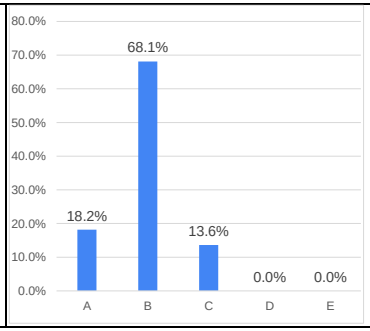
【質問12】（教職員と指導者への質問項目）
生徒自らが意欲を持って取り組む姿勢となるよう、心理面を考慮した肯定的な指導等、指導者と生徒の信頼関係を前提とした指導を行っていますか。

【R4質問】
生徒自らが意欲を持って取り組む姿勢となるよう、心理面を考慮した肯定的な指導等、指導者と生徒の信頼関係を前提とした指導を行っていますか。

R５　教職員

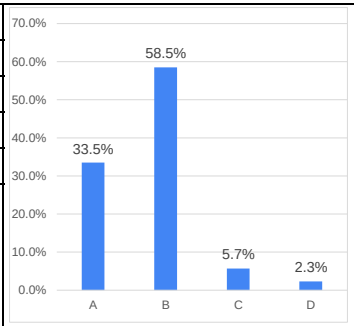


R５　指導者



回答項目
A できている
B ややできている
C ややできていない
D できていない
E 無回答

R４　教職員＋指導者

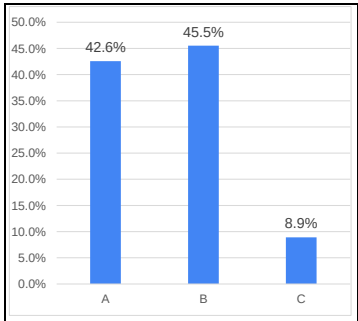


回答項目
A できている
B ややできている
C ややできていない
D できていない

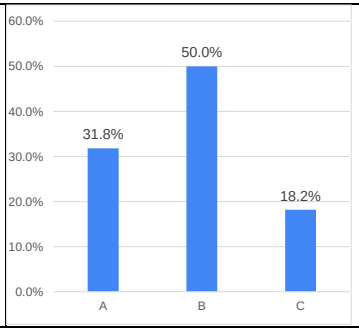
【結果と考察】
〇昨年度は、92%の教職員と指導者が「A できている、B ややできている」と回答した。今年度は70．3%の教職員と86．3%の指導者が「A できている、B ややできている」と答えていることから、指導者と生徒との信頼関係を前提とした「心理面を考慮した肯定的な指導」、信頼関係を重要視して部活動運営・指導に取り組んでいることがわかる。（教職員の22．2%は無回答）
昨年に引き続き、教職員と指導者がこれまでの方法を継続、改善しながら、互いにより良い関係づくりを考慮した指導を実践していると考えられる。
一方で、「ややできていない」「できていない」と回答した方が約10%いることから、指導の現状を把握する事や改善策等について共有を図る事が大切であると考えられる。

【質問13】（教職員と指導者への質問項目）
練習のし過ぎは心身の不調やケガなどの原因になること（心身の不調やケガなどを防ぐために、休養をとることが大事なこと）を生徒に教えたことはありますか？

教職員



指導者

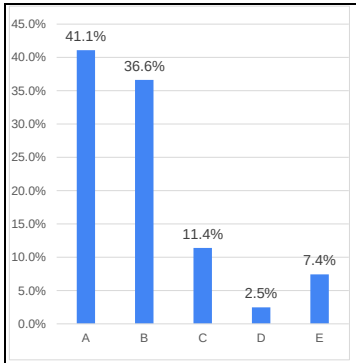


回答項目
A 積極的に教えている
B 教えたことがある
C 教えたことはない

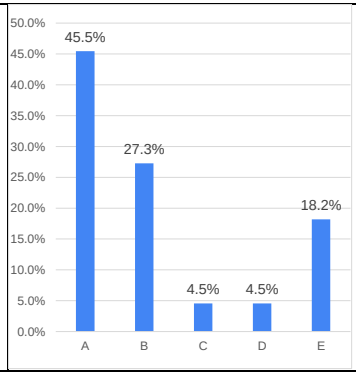
【結果と考察】
〇教職員の42．6%と指導者の31．8%は、「A 積極的に教えている」と回答し、教職員の45．5%と指導者の50%は「B 教えたことがある」と回答した。ほとんどの教職員・指導者が練習のやりすぎについてのデメリットと休養の重要性についての指導を心掛けている。
「C 教えたことはない」と回答した教職員と指導者も含め、今後、心身のバランスを保ちながら心技体の育成に取り組んでいくため、積極的に教えるよう心がけて欲しい。

【質問14】（教職員と指導者への質問項目）
現在、休日（土日、祝日）の部活動の地域移行が推進されています。仮に、週1回（土日のどちらか一日）地域でスポーツ活動が行われるとしたら、生徒たちは参加すると思いますか？

教職員



指導者

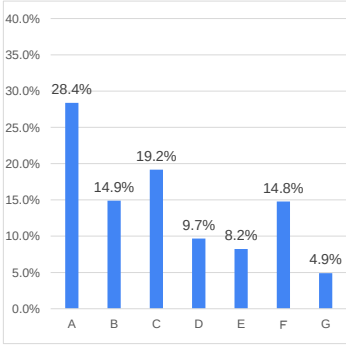


回答項目
A 参加すると思う
B どちらかといえば、参加すると思う
C どちらかといえば、参加しないと思う
D 参加しないと思う
E 分からない

【結果と考察】
〇ほとんどの教職員・指導者が、週末の地域スポーツ活動が実施されたら参加するだろうと回答していることから、週末の地域移行についての期待感はあるといえる。一方、「D参加しないと思う・E分からない」との回答については、週末の地域移行がどのような形で実施されるのかなどの内容の周知がなされていないことが原因だと思われる。

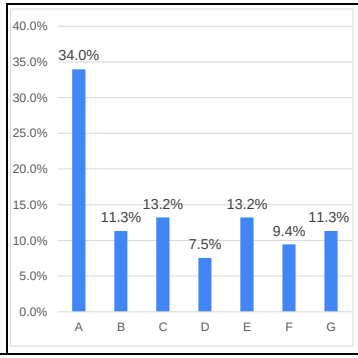
【質問15】（教職員と指導者への質問項目）
どんなスポーツ活動なら、生徒たちがより満足できるものになると思いますか？　　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

教職員



回答項目
A 専門的で丁寧な指導を受けられる
B やりたい種目が選択できる
C 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
D 勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
E 他校の友達ができる
F より勝利を目指す活動にする
G 活動内容などを生徒同士でに決められる

指導者

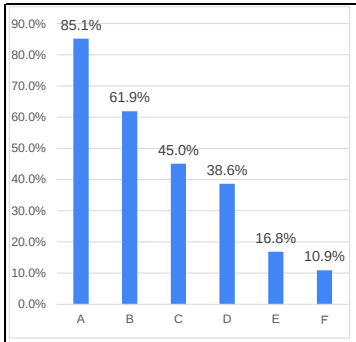


回答項目
A 専門的で丁寧な指導を受けられる
B やりたい種目が選択できる
C 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
D 勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
E 他校の友達ができる
F 一種目だけではなく複数の活動に参加できる
G 活動内容などを生徒同士でに決められる

【結果と考察】
〇教職員・指導者ともに「A専門的で丁寧な指導・C健康状態に配慮」と答えている。より専門的な知識をもって丁寧に指導することが生徒の満足度を高める大きな要素であることが分かる。

【質問16】（教職員への質問項目）
土日の部活動指導がなくなったときに、どのようなことに時間を割きたいですか？　　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位6項目

教職員

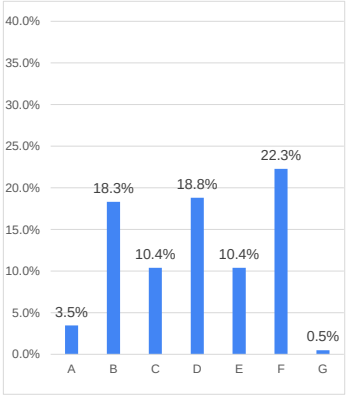


回答項目
A 家族や友人と過ごしたい
B 自分の好きな趣味の活動をしたい
C 授業準備の時間を増やしたい
D 何もせずのんびりしたい
E 担当教科以外の学びの時間を増やしたい
F 地域の文化・スポーツ活動に参加したい

【結果と考察】
〇多くの教職員が「A 家族や友人と過ごしたい、B 自分の時間を大切にしたい」と回答している。
「C 授業準備の時間を増やしたい」という声も45%あることから、日常の業務量に対しての時間不足という面も垣間見える。

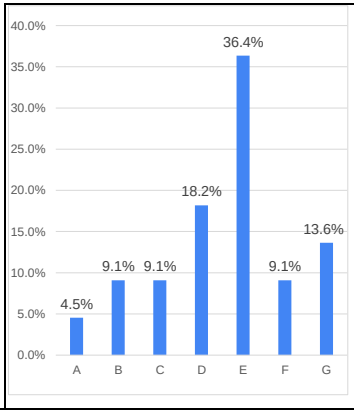
【質問17】（教職員と指導者への質問項目）
地域で活動を展開するにあたって課題になりそうなことをご回答ください

教職員



回答項目
A 先輩後輩との関係性が希薄化する
B 学校における生徒指導・生活指導ができなくなる
C 活動がより過熱化してしまう
D 体験の格差が広がる
E 学校を代表して活動する意識がなくなる
F 結局、教員の負担が減らない
G 練習試合や大会等の運営はどうなるのか

指導者

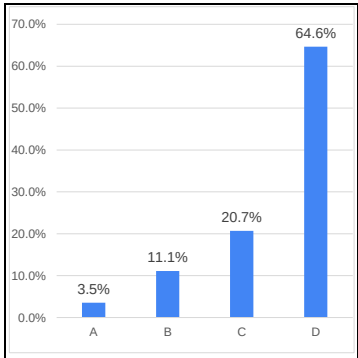


回答項目
A 先輩後輩との関係性が希薄化する
B 学校における生徒指導・生活指導ができなくなる
C 活動がより過熱化してしまう
D 体験の格差が広がる
E 学校を代表して活動する意識がなくなる
F 結局、教員の負担が減らない
G 指導者手当や場所、物、時間等

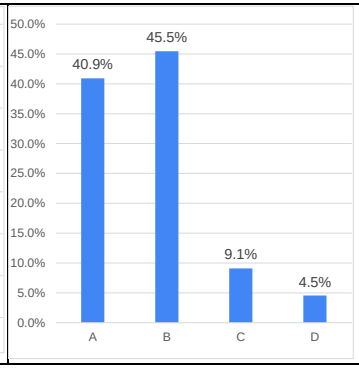
【結果と考察】
〇教職員は「F結局、教員の負担が減らない」が最多。地域での活動を展開するにあたり、教職員が間に入って調整する事も多くなると考え、結局負担が減らないのではないかという見方をしていると思われる。指導者は「E学校を代表して活動する意識がなくなる」が最も高くなっている。
「D 体験の格差が広がる」については、共通してあり、「B 学校における生徒指導・生活指導ができなくなる」については、教職員と指導者の認識の違いがみられた。

【質問18】（教職員と指導者への質問項目）
今後、「休日」の部活動が地域移行された場合に、地域指導者として活動を行いますか？

教職員



指導者

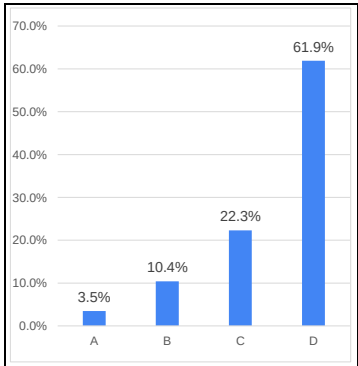


回答項目
A 活動したい
B どちらかといえば、活動したい
C どちらかといえば、活動したくない
D 活動したくない

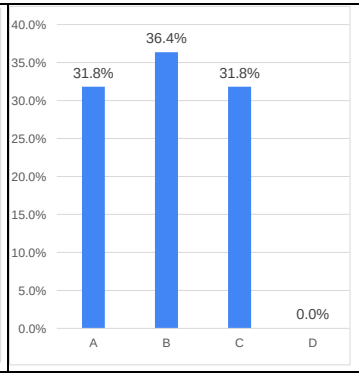
【結果と考察】
〇教職員は「C どちらかといえば活動したくない・D 活動したくない」が85．3%となり、指導者は「A 活動したい・B どちらかといえば、活動したい」が86．4%となった。
教職員は、地域指導者として活動した場合、現在の負担感が変わらないことや地域との連携、新たな課題が生まれること等から、消極的な回答につながったとみられる。指導者は、地域移行後も引き続き活動に携わりたいとする回答が多くある。

【質問19】（教職員と指導者への質問項目）
将来的に「平日」の部活動も地域移行された場合に、地域指導者として活動したいと思いますか？

教職員



指導者

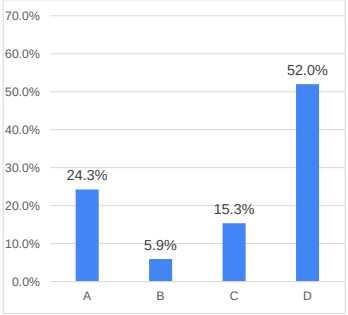


回答項目
A 活動したい
B どちらかといえば、活動したい
C どちらかといえば、活動したくない
D 活動したくない

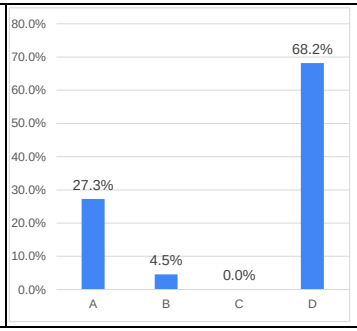
【結果と考察】
〇教職員は上記の考察と同様だが、指導者は上記と違い、「Cどちらかといえば、活動したくない」が31.8%であることから、休日は参加するが平日は参加できないと考えていることから、現在、務めている組織が承諾すること等も関係していると考えられる。

【質問20】（教職員と指導者への質問項目）
各学校において、部員やその保護者からの部活動における暴力・暴言・ハラスメントの校内相談体制（窓口）を設置し、指導者・部員・保護者へ周知していますか？

Ｒ５　教職員

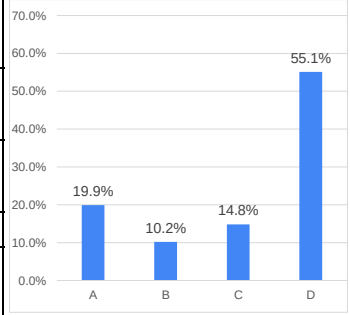


Ｒ５　指導者



回答項目
A 校内相談体制（窓口）を設置し、指導者・部員・保護者へ周知している
B 校内相談体制（窓口）を設置しているが、指導者・部員・保護者へ周知していない
C 校内相談体制（窓口）を設置していない
D 分からない

Ｒ４　教職員＋指導者



回答項目
A 校内相談体制（窓口）を設置し、指導者・部員・保護者へ周知している
B 校内相談体制（窓口）を設置しているが、指導者・部員・保護者へ周知していない
C 校内相談体制（窓口）を設置していない
D 分からない

【結果と考察】
〇昨年度と今年度はほぼ同率である。多くの学校が実質的に、顧問・副顧問・担任・副担任等→部活動担当→部顧問会・管理職 という相談体制を取っていると思われるが、校内相談体制（窓口）が具体的に示されていない状況の学校多いのではないかと考えられる。年度当初で部活動の相談体制についての整理・確認・周知が必要である。学校・指導者・部員・保護者が一丸となり、暴力・暴言・ハラスメントを根絶するとともに、生徒の人権が尊重され、健全で充実した適切な部活動が実現されるよう取り組んでいく必要がある。